

コースコード：DO-DSOF

税込価格：132,000円（税抜価格：120,000円）

日数：2日間

トレーニング内容

本トレーニングは、2026年4月より

受講価格を改定いたします。価格改定の詳細については以下をご確認ください。

[一部トレーニング 受講価格改定のお知らせ](#)

企業がコードをこれまで以上に速く、頻繁にデプロイするようになると、新たな脆弱性の発生も加速します。「開発」「セキュリティ」「運用」をビジネスのスピードに合わせて提供することは、現代の企業にとって不可欠な要素となるはずです。

本トレーニングは、DevSecOpsがどのようにビジネス価値を提供するか、ビジネスチャンスを拡大するか、企業価値を向上させるかなどをテーマにしています。
ご紹介するDevSecOpsの中核となる原則は、組織の変革をサポートし、生産性を高め、リスクを減らし、リソースの使用を最適化します。

本トレーニングでは、DevOpsのセキュリティプラクティスが他のアプローチとどのように異なるかを説明し、組織に持ち帰るために必要なスキルを提供します。
受講者は、DevSecOpsの目的、利点、コンセプト、語彙、アプリケーションを学び、DevSecOpsの役割がDevOpsの文化や組織にどのように適合するか理解します。トレーニングの終わりには、セキュリティとコンプライアンスの価値をサービスとして適用可能にするための「Security as a Code」を理解します。

本トレーニングを通して、開発者からオペレータまで幅広く、セキュリティプログラムを統合するための手順を学ぶことができます。
すべての関係者がそれぞれの役割を担い、組織や顧客を守るための主要な手段として、どのようにこれらのツールを使用できるかを、複数のケーススタディ、ビデオプレゼンテーション、ディスカッションオプション、演習教材を用いて効率よく学びます。

本トレーニングは、DevSecOps Foundation試験の内容を網羅しています。

ここに注目!!

DevOpsのセキュリティ戦略やビジネス上のメリットなど、DevSecOpsの目的、メリット、コンセプト、語彙などを学びます。

ワンポイントアドバイス

受講料には、認定資格試験バウチャー費用も含まれております（試験バウチャー単体でのお申し込みはできません）。



本コースは、「DevSecOps Foundation」試験の内容を網羅しています。
試験バウチャーは発行後90日間有効です。
試験時間：60分(試験は、テキストや資料などの持ち込みが許可されています)
問題数：40問の多肢選択問題(合格点65%以上)
試験言語：日本語選択が可能です。

受講対象者

このコースの受講対象者は次の通りです。

- ・ DevSecOpsの戦略や自動化に関わる方、興味のある方
- ・ 継続的デリバリーのツールチェーン・アーキテクチャに関わる方

前提条件

このコースを受講する前に受講者が習得しておく必要がある知識およびスキルは次のとおりです。

- ・ 一般的なDevOpsの定義と原則に関する基本的な知識があること

目的

このコースを修了すると次のことができるようになります。

- ・ DevSecOpsの目的、利点、コンセプト、および語彙の理解
- ・ DevOpsのセキュリティ対策は他のセキュリティアプローチとどう違うのかについての理解
- ・ ビジネスに直結したセキュリティ戦略とベスト・プラクティスの理解
- ・ データおよびセキュリティ・サイエンスの理解と応用
- ・ 企業のステークホルダーをDevSecOpsの実践に組み込む
- ・ 開発チーム、セキュリティチーム、運用チーム間のコミュニケーションの強化
- ・ DevSecOpsの役割とDevOpsの文化や組織との相性の理解

アウトライン

DevSecOpsの成果の実現

DevOpsの起源

DevSecOpsの進化

CALMS

「3つの道」

サイバー脅威の定義

サイバー・スレット・ランドスケープとは？

脅威とは？



何から守るのか？

何を守るのか、そしてその理由は？

どうやってセキュリティに相談すればいいの？

レスポンスなDevSecOpsモデルの構築

デモンストレーションモデル

技術的、ビジネス的、人間的な成果

何を測定しているのか？

ゲーティングとスレッシュホールド

DevSecOpsのステークホルダーの統合

DevSecOpsの心構え

DevSecOpsのステークホルダー

誰にとって何が問題なのか？

DevSecOpsモデルへの参加

DevSecOpsのベストプラクティスの確立

スタートオブザイヤー

人、プロセス、技術とガバナンスの統合

DevSecOpsの運用モデル

コミュニケーションの方法と境界線

成果にこだわる

始めるためのベストプラクティス

「3つの道」



ターゲットとなる国を特定する

バリューチェーンを中心とした考え方

DevOps パイプラインと継続的なコンプライアンス

DevOps パイプラインの目標

継続的なコンプライアンスが重要な理由

アーキテクトタイプとリファレンスアーキテクチャー

DevOps パイプライン構築の調整

DevSecOpsツールの分類、種類、例

成果を使った学習

セキュリティトレーニングのオプション

ポリシーとしてのトレーニング

体験型学習

クロススキリング

DevSecOpsの集合的な知識体系

DevSecOps Foundation認定試験への準備